

中齋塾 東京フォーラム
平成 25 年度第 3 回

平成 25 年 3 月 9 日
東京フォーラム
於 湯島聖堂

おはようございます。今、テープが回っているのか確認をしました。この間、猪瀬理事長、比田井副理事長、今井副理事長 3 名で財務省の野島さんのところに伺いました。事務局から、私はテープ係ということでテープを二つ持たせられました。ちゃんとスイッチを押したのですが、途中で気がついたら一つはテープが回っていない。一つはちゃんと回っていたから、やれやれ良かったなと思ったわけですが機械に自信のない人は何度も見直しをすると良いと思います。

今回は季刊誌「知足」の座談会でお邪魔をしました。座談会の最初のテーマはインフレターゲット論です。物価上昇率 2%の是非という内容でお話を伺いました。話の中身も比田井副理事長が聞いて戴いたのですが、アベノミクスが始まる前はインフレターゲットといえばハイパーインフレを引き起こす引き金になるから、インフレターゲットという言葉自体が悪者扱いで、世に出ても叩かれるというものでした。日本語って面白いもので形を変えると、内容が変わらなくとも、世間に受け入れられます。安倍さんが登場して物価上昇率 2%を目途とするという様なことを言いましたら、マスコミは手のひらを返したように褒めそやすわけです。これからドンドン景気が良くなるという錯覚を日本の中に広げています。それで黒田さんが日銀総裁の候補でしたから、「その方はどうでしょうか」と野島さんに水を向けたら、興味深いお話がでてきました。興味深いというより奥の深い話でしたが、座談会のテーマが「夢と希望をもたらす山田方谷」に変わってしまいました。

季刊誌「知足」のスタイルを少々変えようと思っています。

日本の国がだんだん世界から注目を浴びてくる。そして今よさそうに見える。消費税を上げる為に、錯覚でも何でも良いから秋口までに景気が良くなったと実感して貰わないと、消費税が上げられません。そういう動きを日本はしています。はたしてそれで進むのだろうかという時に、先見の目がある方は、これから日本の行く末について役に立つヒントや、それなりのポストについている方々と話をし、載せて良さそうな部分を出来る限り増やして、季刊誌「知足」の中に取り入れたいと思っています。一番目は野島さんでしたので、次回は誰にしようかと楽しみながら考えています。これは理事長、副理事とも相談をして、色々な人の意見を取り入れて誰かというのを決めたいと思います。

恒例の質問

- ・昨日1日有難うと言ひ、有難うと言われた方？
- ・昨日1日良い日だったと、しみじみ思えた方。
- ・挨拶について、新年明けてから今日まで良い挨拶をした。または良い挨拶をされたなと思う方？

挨拶という文字は、どちらも「相ぶつかる。痛みを感じる」という言葉ですから、「御挨拶痛み入ります」という科白は、相手が打ちこんで来て一本ビシッと決まった。そうすると頭先从から足の先までビリビリと電流が走って失神するかもしれない痛みを強烈に受ける。それから、すっきりするというこで、挨拶というものは相手に対して一本決められて「恐れ入りました」でなければ本当ではない。お互いがお互いを恐れ入りましたと言ったら、それは素晴らしい挨拶ができたといえます。「良い挨拶をしましたか?」、「良い挨拶を受けましたか」というのは、1年間の内1回ぐらいあると良いです。

- ・健康法を実践された方？

美人であればある程、心の中を磨かないと本来持っている美しさが出てこないという風に聞きます。心が不美人であると、見た目はちょっと良さそうだけれど、1~2時間お喋りをしている内に「御免なさい」ということになる。心を磨けば磨くほど味が出てきて、よい人間関係が作られていくとお考え戴きたい。

- ・自分自身に対する嘘でも良いのですが、朝起きてから今の時間までの間で嘘をついつい言ってしまったなという人？

人と話す暇がなければ嘘を言う暇はないですね。こういう聞き方も悪くはない。

時事評論と重なりますが、ここでは嘘をつかない。嘘をつかないと実に気持ちもすっきり爽やかで表情も良いですよと話をさせて戴いています。野田さんが首相になった時には、けっこう爽やかな印象を与えていました。だんだん時間が経つにつれて悪相になってきました。辞める頃は同じ人間の顔かと思うぐらい人相が変化したなと思っています。安倍さんも復活をして首相になった時には良い人相だなと思いましたが、だんだん鶴の表情になってきています。

今日の朝日新聞の記事で面白いなと思ったのは、2013年度の政府予算案について、予算が92・6兆円。それを税収43兆円、借金42・8兆円で賄います。安倍さん麻生さんは、税金の収入が4年ぶりに借金を上回りました。税収が43兆円もあるし、借金も少なめにしましたということで胸を張って言っていますが、実際はどうでしょうか。朝日新聞に書いてあるのは、補正予算で13・1兆円、その内7・8兆円は借金だし、基礎年金の2・6兆円は消費税で対応すると言っている。こういうものは、みな外されているから実質的な借金は45・4兆円。したがって借金を減らしたのではなくて、「誰か貸して」と言って借りて、この借金はみな見えないので内緒でやろうと、そして政府は大きな顔をして「健全財政でご

ざいます」と言っているようなものではないか、という批判を野党がしている。そのように朝日新聞に載っていました。朝日新聞が批判しているのではなく、野党が粉飾決算であると批判しているということです。何のことはない、偽りの一般会計。こういう嘘、偽り、欺瞞がアベノミクスの中にたくさん散見されるとなると、また前の手で押さえる、騒ぐ、そういう風な動きに出てくるのではないかという感じがします。ですから民主党の時には無様な手を良く見ましようと言いましたが、アベノミクスでは眼をしっかりと開いて良く注視していないと嘘・偽りに誤魔化されてしまうと思いますので、そこら辺を踏まえて、嘘を言わないように今年一年間を過ごしていきたいと思います。

素読論語 解説

論語の中で良いなと思う言葉を見つけて戴き、それを現在に置きかえて、また自分の身の周りに置きかえて見るのがポイントです。

今日の素読は品があって良かったです。黙読より素読で読むと良い。字面が分かり意味が分かって読むだけなら、あまり人様の心に沁みこんでこない。中身が分かって読む時に、季子然はどういう風に孔子に聞いているのか、孔子はどういう表情をして答えているのかなと想像してその人物が自由に動くようなイメージで読めると、論語を楽しんでいるな、血肉にしているなという風に思います。またその一歩先は、その人物が論語の中の科白状況を我がものとする。血肉にする。その先は、その中で自分が磨かれていく、心が磨かれてくると品が良くなる。人品が非常によろしくなるということで、今日の素読論語はゴマすりではないですが、実にそのような入口に立っているという品格が感じられました。品格が感じられたということは、相当練らないと出来ない。練るといのは老熟、老成、老練という言葉があります。「老」これの良い人生の過ごし方というのもあります。

皆様の素読が「人様から良い素読だね」と言われるようになると私も嬉しく思います。

『先進第十一』

【二三】季子然 問う、仲由・冉求は大臣と謂うべきかと。子曰く、吾 子を以て異なるを之れ問うと為せり。曾 ち由と求とを之れ問うか。所謂大臣は、道を以て君に事え。付かなれば則ち止む。今 由と求とは、具臣と謂うべしと。曰く、然らば則ち之に従わん者かと。子曰く、父と君とを弑せんには、亦 従わざるなりと。

季子然が「仲由、冉求は大臣といっても良い人物でしょうか？」と聞きました。これはそっくり今の内閣で話が出来ます。安倍さんの感覚でいけば、総理大臣になり自分で素晴らしい人間を抜擢した。どうだと褒めて貰いたいわけです。孔子は、「もっと違うことを聞くであろうと思ったが、あなたは仲由・冉求を素晴らしい大臣かという質問は、お門違い

なのでは。大臣というポストについている人間は、正しい道、道理の考えを持って主君に仕え、主君を諫めても正しい道を主君が行わければ、辞めれば良い。主君がアホなら辞めなさい。今あなたが言った仲由と冉求是派閥の関係で入れた数合わせの大臣である」。季子然は褒めてもらおうと思ったら、逆に批判されて頭に血が上ってしまった。季子然は「主人の意向に従うというだけの者でしょうか」と聞き、孔子は「仲由と冉求是数合わせの家臣ではあるけれども、父親や主君を殺させようとしても従いません。二人は良心に従って進むでしょう」

今日のニュースで、ミャンマーのアウサンスーチーさんが政商から金を貰ったのはけしからんと流れていましたが、賄賂を貰って自分の意思を曲げるのは良くないのではと思います。世の中、賄賂が横行しています。論語の中の季子然という人は、賄賂ではなく主君の収入の半分を取っていました。残りの半分以上を自分の親戚二人と主君にあげるのです。本来は主君に納めなければならないものを半分横取りしているのだから、孔子は「取り過ぎだ」というのを暗に批判している部分です。周りを見渡しますと、少々の賄賂はそこら中にあります。どの程度に納めるかというのが世の知恵だろうという気がします。基本的には賄賂でまわらない国が良いなと思います。デフォルトを起した国をまわって見た時に、トルコ、アルゼンチン、ロシア、中国もそうですが賄賂を取り過ぎたが為に、汚職がはびこり過ぎたが為に、デフォルトに至ったというのを現地で実感しました。

【二四】子路 子羔をして費の宰為らしむ。子曰く、夫の人の子を賊わんと。子路曰く、民人有り、社稷有り。何ぞ必ずしも書を読みて然る後 学ぶと為さんと。子曰く、是の故に夫の倅者を悪むと。

子路は子羔を費の代官にした。孔子は、「子羔という者は、まだまだ未熟だ。子路、お前は子羔を駄目にするのかい」と言ったら、子路は「隣人がいます、社稷（土地の神、穀物の神）もあります、本を読むことばかりが学問を鍛える道といえましょうか」孔子は「そういう言い方をするから、お前は口先が少し達者になってきたと思うのだよ。出会った頃のスタイルを考えてみてごらん」。

子路は面と向かって孔子に歯向かいますから、孔子と子路が丁々発止みたいなことをして孔子がタジタジとなり最後に一言、「お前みたいなやつは、まったく口先ばかりではない」と、ちょっと孔子があとずさったような会話になりました。孔子が一番弟子の顔回と話をしている時とは違う、別の愛情を子路に対して注いでいるというのが見えてきます。このような会話が、学者と弟子の間にあれば良いなという気がします。

ここの件でちょっと思い出したのが、産経新聞に載っていた政治家の漢詩について、あ

る学者が「あの漢詩は下手糞だ」と叩いた文書を思い出しました。あの学者は思ったことを真っ正直に言うから敵が多いだらうと思います。あまり人を悪く言うのは良いものではないし、本人がハッと分かればそれに越したことではない。ただ政治家は面の皮が厚いからあそこまで言わないと分からないのかなという部分もありますが、人を叩く時には最初はオブラードに包んで、言っても分からなかった時に強く言えば良いだらうと思います。最初から叩く必要はないなという感じがしました。子路と孔子の間柄での叩き方は良いのですが、人様の前で大きく出す時にはちょっと問題だなという気がしました。

紹介書籍

『昭和恐慌 経済政策』中村隆英著 講談社学術文庫

三冊ほど選んだのですが、読みやすい物にしました。

時事評論

<本質・大局・歴史>を2月に続いて申し上げたい。

前回は今の日本をどう見るかという話をさせて戴きました。今回は、終戦直後の日本をどう見るかというテーマにしました。何故ならば終戦直後のことを意識する必要がある、今あると感じます。恐慌といわれる時期はどういう時代だったのか、それをどう見るのか。

何度も申し上げていますが、終戦直後の日本を見る時については、時間のある方は国会図書館に行かれると良い。国会図書館に行くと当時の新聞五紙が残されていますから、それを読まれると良い。これも何度も申し上げていますが、昭和21年2月17日付の新聞には、お札がこれから変わるから一般庶民はお金をみな銀行に預けて下さい。そうしないとこれから使えなくなります。銀行に預けたら凍結をします。それでは生活が出来ないので1ヶ月500円ぐらいまではおろせます。銀行にお金を預けなければ、使えなくなるという金融封鎖という記事が大きく出ています。それから旅行禁止も出ています。地方の人が都会に行くと都会の食料をみな食べてしまうだろうから、都会の人口が増えるのは好ましくない。従って地方の人は都会に行ってははいけませんというものが、その日付で出ています。色々細かなものが出ていますから、60数年前をご覧になるとよろしいでしょう。時間のない方は、そういうことが書いてある本をご覧になるか、また探すと良いでしょう。昭和恐慌と終戦直後の日本の状況を見れば、これから起きてくる日本のあり様というものが大体推測がつかます。源泉徴収や年金は戦費調達のために始まった仕組みです。いまだに続いています。戦争をしようとする時には、嘘八百を並べて政府は国民からお金を取る。それは日本の国家がかつてしたことであると私は理解しています。ですから自分で自分のお金・資産は守らなければいけないという時代が来ています。それを自覚するかどうかだけの話です。自覚をした方はそれなりの対応をしましょう。相互扶助みたいなものも必要

でしょうし、誰かが困った時には誰かが助けるという仕組みは必要です。

東日本大震災の時、以前にも申し上げましたが家内と 1 週間ほど被災地に行って悲惨さを目の当たりに見させて貰いました。グルグル回って見た後に寄付をさせて戴きましたけれど、受けた印象によって寄付金の額を変えさせて戴きました。あの時即座に断ったのは日赤への寄付です。日赤に寄付したら自分の思った通りにいかないと思ったからです。良いと思うことを世の中の流れに迎合してするのではなく、自分自身の判断基準で、自分の意思で、できれば足を使い自分の目で見て身体で感じて、その上で行動に移すのが良いと思います。

中斎塾の基本理念は「知足」ですが、実際に行動をする時には判断の三原則である、「本質・大局・歴史」という考え方を身につけて戴くようにして欲しいと思います。

行動をする時に、私は陽明学がベースですから、即行動をする。良いなと思ったら、また疑問に思ったら、一番事実に近いところの現地に行く。その人に会う。そうすると印象がまるで違いますので、現地に行くのが良いです。また余分なことを申し上げますと、この間、大学の同窓生達と奄美大島に行ってきました。収穫がありました。収穫とは、私は「陽明学のすすめ」シリーズを 10 冊出す予定でして、今は 5 冊まで出していますが、10 冊目もしくは番外の 11 冊目に西郷隆盛を取り上げるつもりでいます。上野にある西郷隆盛の銅像を見て「私の亭主はこんな顔をしていない」という科白で有名な奥さんのイトさんの他に、女性が三人いたという事が分かりました。20 歳代前半の時に、自分の身分を明かさず台湾で子供を作って同棲生活をしていたが、別れる時には蒸発をした。相手の女性はそれがきっかけで病になり亡くなったとありました。たぶん狂い死にはないかという印象を持ちました。二人目の女性はイトさんの前に鹿児島の家に入った須賀さんで、西郷家は貧乏で幼い兄弟達や近所の子供まで養うという様な面倒をみていましたが、それに我慢ができなくなって奥さんは逃げ出しました。三人目の女性は奄美大島の愛伽那です。これは藩法があって単身赴任であれば島の女性を娶っても良い。子供は本土に連れ帰って教育を施しても良いとあります。奄美大島では子供が二人で、一人は京都の市長になりました。私は西郷隆盛の「子孫に美田を残さず」という科白がどうしても納得できなかったのですが、この間奄美大島に行って実感を持ちました。あれは読み方を変えれば良い。「子孫に美田を残さず」ではなく「子孫に普通の田畑を残した」と。西郷隆盛は普通の田畑を残したのであって、美田を確かに残さなかったのだろう、と納得をしました。何故かと言えば、西郷隆盛は藩から貰ったお給金で、出来得る限りの金を作って残したのは、畑が一反、田んぼが一反、新築の家一軒、それを島の家族に残したという記録があります。その四人の女性をみると一番幸せだったのは、島の妻、愛伽那さんじゃないのかなという気がしました。これは奄美大島に行って初めて感じました。西郷隆盛をめぐる四人の女性の資料を手して、今度は実際の家を見に行かなければ、いけないなと思います。

ひとつひとつ自分で氣になったことは現地に行って見てくると体感できる。隣の島の沖

永良部島には、西郷隆盛がやせ細ってどうにもならない骸骨みたいな状況で命を繋いだという、その状況が木像で残っていると聞きました。それは見に行きました。上野のお山の像とはまるっきり違うなど実感をしました。何故そうなったかという事が現地に行くと、身体に沁みこんでくる。ぜひ皆様も、色々なお仕事の中で実感できるような動きをされると良い。あと記録に残せれば更に良いと思っています。

昨日と今日の朝日新聞を見ました。世の中だいぶ変わってきています。動きが急展開を始めています。前回までは新聞を見る視点として民主党政権の打つ無様な手と、国債の動向、自然災害があると言ってきましたが、今年からは安倍政権の打つ手を、眼をしっかりと開いてよく注目していきましょう。民主党は全部ダメという風に見えたけれど、安倍政権は良いこともやるが、悪いこともやるし、嘘をつく。良く見ていかないと、見抜けません。言い方を変えます。自分自身が向上するものには、安倍政権の打つ手を良く見ていきましょう。1年経って気がついてみたら、自分の見方のレベルが上がったぞと思うようになります。今の動きはかなり急展開です。例えば、公職選挙法改正案、自民党と公明党と維新の会が共同提案を13日にする。これはインターネットによる選挙運動が解禁されるということです。この間、群馬経済同友会でこの話になった時に、「スマホを持っているか」と聞いたら、誰もいなかった。そのテーブルに居たのは60歳以上でした。他のテーブルに「持っているよ」と見せてくれる人がいましたが、「でも使えない」とお喋りをしていました。自民党も年寄り集団なのですが、若い人も増えたからインターネットによる選挙を解禁したというのは、若い連中からの突き上げと若い人達の意見も取らないと駄目なのでしょう。

今年は黎明が始まると前に申し上げましたが、この記事から見える事として、五年間ほどで日本の夜明けが始まりだした、という実感があります。政権を担った自民党も変わってきていると思います。自民党の中身が変わったという事は、どんどん若い人達がこれから出てくる。これを押えてしまうと自民党は分裂をする。分裂の危機を回避しているなど見えました。

8日に、中国が北朝鮮の核実験で国連の厳しい制裁決議案に賛成した。核武装を北朝鮮にはさせないと中国が表明したという風な記事ですけれども、中国は新たに習近平さんが就任しましたが、まだまだ足元は確立をしていない。北朝鮮がとんでもないことをした時には抑えなければいけないし、自分達の実験を確立する為に役に立ちそうなものは、何でも取り入れようというものが、もろに出てくると見えてきました。北朝鮮の取り扱いが変わるなど感じました。

2011年度に定年前の南相馬市の職員123名が早期退職をしたと書いてありますが、前年度の7倍辞めてしまった。なぜ辞めたのか。南相馬市の職員が辞めるのは、住民から色々叩かれ文句を言われ、それに耐えかねて辞める。そこから出てきたものは日本人という人種は面と向かって文句を言われる、批判をされるということに慣れていない人間が増えすぎた一つの表れだと感じます。南相馬市は123名が早期退職をし、ここの県では457名

が早期退職をしている。前年度より 161 名多い。南相馬市の早期退職者は多すぎますね、そういう気がします。そこから見えてくるものは、自治体のお給料、職員のお給料は自分自身の働きに見合ったお給料を貰っているかどうか。貰いすぎか、少なすぎか、妥当か。これは難しいところです。自分自身の仕事に見合ったお給料を貰っているかどうかというのは、一時期ゴーンさんが話題になりました。ゴーンさんは、べらぼうに貰いすぎていると日本人は思う。日本人の中でも電力会社の職員、今日の新聞で九州電力が 867 万円、これは高すぎるし多すぎる。でも中にいる人達は多すぎるとは思わない。ここら辺の意識の差は、どうして出てきたのだろうかと考えます。今の日本人が受け取っているお給料、収入というのは妥当か妥当ではないか、それから満足か不満足か。ブータンと照らし合わせをしながら、幸福度、幸せの追求というものの考え方と繋がってくるし、自分自身が幸せだと考える時の判断基準を御自分でお持ちかどうか。持っていなければ追求すれば良いでしょう。南相馬市で早期退職をした方々に、精神的な安定感と物質的な安定感に関し、もうちょっと突っ込んだアンケートをされると良いのになというのが、この記事からしました。一つの記事を見ると様々なことが次々に連想されます。

今日の新聞で、国際オリンピックの評価委員会が「満足だ」と言って帰ったということですが、3・11 をかなり意識してこの委員長さんは発言していたと思います。

新聞記事で表れてくるものは、今の日本の中でいくとアベノミクスを意識して見る必要がある。それからオリンピックの招致の動きがある。それと 3・11 の後遺症を見る必要がある。私は、ここら辺をテーマで記事を見ます。そうしますと、朝日新聞で面白いことが出ていました。3・11 で宮城県と福島県と岩手県の 3 県で仕事をしていました人が 259 万人。「現時点で影響があるか」というアンケートで、3・11 で自分の仕事に影響がでた人 42・6%、従来の仕事から離れた人は 8 万 1 千人、その内で現在仕事に就いていない人は 3 万 4 千人。休職している人は 63 万 9 千人ということですが、この数字はかなりいい加減な数字だなど思いました。私が経営しています会社で、仙台・福島で人材を募集していますがミスマッチで人がなかなか集まらない。助成金を戴いて生活をすることに慣れた方があまりにも増えすぎたようです。私が経営している営業所を回って色々話を聞きましたら、真剣に勤めたいという方が少ない。それは助成金で食っていけるから、助成金が無くなったら生活保護を貰うからよい。生活保護が貰えなくなったら始めて何でもいいから仕事に就きたいとなる。でも漁師の方は漁師の仕事がしたい、車関係の方は車の仕事がしたい。もと自分がしていた仕事をしたい。これはごく当たり前の要求だと思いますが、勤められなくなり食べるものが無くなれば、恥も外聞もなく何でも良いからやらせて下さいとなると思いますが、ところが恥も外聞もなしという前に仕事の選り好みをしている。これは日本人全体そうですもの。日本人だけではなくて文明国家といわれている先進諸国っていうのは、昔 3K と言われていたことはやらない。手は汚さない。日本人全体は手を汚さない民族になってきてしまったのだと 3・11 の視点を通してみると見える。

安倍さんの三本の矢、「金融、財政、成長」ですが、はたしてどうかなという疑問符を持って、よく見ていないといけないと思います。春闘で日産、ホンダ、富士重工はボーナス満額回答をしました。セブン&アイ・ホールディングス、ローソンも満額回答ということです。これは実際に利益が出ないとできませんから、効果はあると思いました。ただ政府は口を出し過ぎなのではと思います。官房長官が一企業の名前をあげて、「賃上げをせよ」とはよく言いますね。そこまで日本の政治家は酷いのか、もう少しマクロでやりなさいという気がしました。あれだけやり玉にあがればやらざるを得ない。政治の質が変わってきました。安倍さんも自分のすべきことがたぶん見えていないのではないかという気がします。色々と本を書かれています、政治家は一貫としてブレのない発言をしていかないといけないと思うのですが、よく見ていくとブレます。余分なことを申し上げれば、中国に行く人、ロシアに行く人、北朝鮮に行く人、政界財界で行く人がいますよね。行く前にどういう発言をしていたかをよくチェックしておく。帰ってきて発言が微妙に変わって来る人、一変に変わってしまう人、よく注意しておくが良いと思います。何を言いたいかと申せば、鼻薬を効かされて帰ってきたのではないのか。鼻薬を効かされて帰って来たのと、握られて帰ってきたのとどれだけ違うのか。それが日本の国を動かしているのかと考えると要注意だと思って、発言はチェックした方が良かろうと思います。

日本が恐慌に見舞われた時、自分の目で見て確認をする必要があると前に申しあげました。当時の柳沢大蔵大臣が、IMF が日本に入ってきた時にどういう政策をとるかについて国会答弁をしています。ネットで調べて戴ければ分かります。IMF はやるであろうという事を、日本政府はそう思われたいくつかを実行しています。これから過激なことが始まるはずで、そこから導きだされるものは自給自足体制、我と我が身を守る為の方法を進めるべきでしょう。ちなみに私は来月引っ越しをします。自給自足体制をとろうとしています。具体的には折々に申し上げていきますので、御参考になればと思っております。